

第5章 各主体の役割

博多湾の将来像を実現するためには、行政だけでなく、市民、NPO等市民団体、事業者、大学等研究機関など、それぞれの各主体が共働して取り組むことが重要です。それぞれの主体に期待される役割や取組み例を示します。

1 行政

(1) 役割

- ・博多湾の環境保全・再生および創造に向けた施策・事業を立案し、確実に実施していきます。
- ・市民、NPO等市民団体、事業者などの各主体の取組みを支援するとともに、各主体間の連携や共働を推進します。
- ・大学等研究機関などとの連携による広域的・新たな環境問題に関する科学的知見の収集、現状把握の充実に努めます。
- ・各種情報の収集（モニタリングなどを含む）と情報発信を行います。

(2) 取組み例

① 市民・NPO等市民団体・事業者などの環境保全活動への支援

NPO等市民団体が、自ら考え自主的に行う環境活動に対し、環境市民ファンドを活用して、積極的に支援を行っています。（エコ発する事業）

また、「福岡市環境行動賞」では、福岡市における環境の保全・創造に高い水準で貢献し、顕著な功労・功績のあった個人・市民団体・学校・事業者を表彰し、広く市民に広報することにより、環境保全に関する市民の関心がより一層深まるとともに、その活動を全市に広げることを目指しています。



福岡市環境行動賞表彰式の様子



② 各主体間の連携・共働の推進

和白干潟を中心に活動する市民団体等と行政からなる「和白干潟保全のつどい」では、定期的に意見交換しながら、和白干潟の環境保全に向けた活動などの共働事業を企画・実施しています。

また、生物多様性に関連した各主体が対話する場、新たな人材との交流の場として、トーク・カフェを開催しています。



和白干潟の生きもの観察会 (左), トーク・カフェで行ったアマモ場のシュノーケリング (右)

③ 博多湾の環境保全に関する情報発信

環境教育・学習の場である「まもる一む福岡」におけるカブトガニの展示など、様々な啓発事業や広報媒体を活用して、博多湾に関する情報を市民に広く提供し、環境保全に対する意識の向上を図っています。



まもる一む福岡に展示されているカブトガニ



2 市民

(1) 役割

- ・博多湾の環境を保全するために、一人ひとりが環境に配慮して行動することが期待されます。
- ・海だけでなく、海につながる森、川、街でも環境保全活動に参加することが期待されます。

(2) 取組み例

① 市民一人ひとりの行動例

家庭の日常生活などにより発生する生活排水や、河川や海岸に不法に捨てられるごみなどは、博多湾の環境に負荷を与える要因となっており、博多湾の環境を保全するためには、行政の取組みだけでなく、市民一人ひとりの環境に配慮した行動が必要となっています。

【博多湾環境保全のための市民一人ひとりの行動例】

博多湾の保全～守る，育てる～

- 1 博多湾の水質を保全するために、水を大切に、「水の汚れの素」になるものを流さないように工夫するなど、生活排水に気をつける。
- 2 博多湾に流れ込むごみを減らすために、河川や海にごみを捨てない。
- 3 海辺だけでなく、山・川・市街地における環境保全活動に積極的に参加する。
- 4 家の庭を緑化するなどして、雨水を地下へ浸透しやすくする。また、雨水を貯留して再利用するなどして、水を有効利用する。
- 5 省エネに配慮した生活を行い、地球温暖化対策に取組み、生物がすすめる環境を保つ。

博多湾の利用～遊ぶ，食べる，学ぶ～

- 1 潮干狩りや海水浴など、自然とのふれあいの場として博多湾に遊びに行く。
- 2 博多湾の恵みである旬の魚、地の魚を食べる。
- 3 干潟や砂浜などで行われている生き物観察会などに参加する。
- 4 潮干狩りなどで生き物を採る時には、小さな生き物は海に戻す。
- 5 博多湾の歴史や文化を知り、大切さを学び、そして伝える。



② 環境保全活動の事例

ア ラブアース・クリーンアップ

「ラブアース・クリーンアップ」は誰でも、簡単に楽しんで参加できる環境のボランティア活動です。平成4年に開催された「ローマ・クラブ福岡会議イン九州」をきっかけに、九州・山口および大韓民国釜山広域市などにおいて、市民・事業者・行政が協力し、海岸・河川などの一斉清掃を実施しています。



ラブアース・クリーンアップの様子

イ 室見川水系一斉清掃

室見川水系の自然を守り、自然に親しむ環境づくりを推進するため、地域の方々からの「室見川・金屑川・油山川の清掃を一斉に行おう」との提言に基づき年に1度、室見川水系河川の上流から下流までを一斉に清掃しています。平成16年から始まったこの取組みは、早良区における河川の一大清掃活動になっています。



室見川水系一斉清掃の様子



3 NPO 等市民団体

(1) 役割

- ・地域の博多湾環境保全活動のけん引役となることが期待されます。
- ・市民の博多湾の環境への理解を広め、裾野を広げる役割が期待されます。
- ・多様な主体による博多湾の環境保全活動と連携し、それを支える役割が期待されます。

(2) 取り組み例

① 地域での環境保全活動

「玄界校区自治協議会環境美化女性部」は、昭和30年の発足以来、長きにわたり玄界島内の清掃活動に取り組んでおり、定期的な清掃活動は地域に根付き、100名近い島民の方が参加しています。仕事などで昼間に島を離れる人も多い中で、地域住民が集まる交流の場となっています。掲示板への張り紙や島内放送などで周知されており、当日参加できない人も、前日などにあらかじめ清掃する、例えば、幼い子どもがいる人は子どもが保育園に行っている平日に行くなどの工夫が、活動の継続につながっています。平成17年の福岡県西方沖地震の際も、「活動を途絶えさせない」との思いから、避難先でも活動を続けていました。



玄界校区自治協議会での清掃活動の様子



② 大学生による環境保全活動

「はかたわん海援隊（福岡大学）」は、「福岡市民の宝である博多湾をきれいにすること」を最終目標に、博多湾に流入する河川をきれいにするために、福岡大学付近を流れる樋井川や室見川で積極的に活動を行っています。月に一度の清掃活動には、高校生や地域住民も参加しています。また、小学校や幼稚園に赴き、川にすむ生物に直接ふれあうことで、川の大切さや楽しさを知ってもらう環境学習も実施しています。

大学・事業者・行政・周辺住民が協力して、シロウオが産卵しやすい環境を整える「産卵場造成活動」を行っています。「楽しんで活動する。自分が楽しくなければ他の人も楽しくないし、興味を持ってくれるはずがない。」をモットーに活動しています。



資料：はかたわん海援隊（福岡大学）

樋井川の定期清掃（左）と室見川のシロウオ産卵場造成活動（右）

③ 博多湾への市民の理解促進

「一般社団法人ふくおか FUN」では、小学校や公民館、漁業者等と協力し、ビーチクリーンアップ活動「“ひろい”海の活動」を行っています。プロダイバーの安全管理のもと、子ども達がシュノーケリングを通じて実際に水中世界を観察し、生態系の豊富な博多湾のことや、ビーチ近辺に多く存在する水中ごみが生物に与える影響について自身で気づき、一緒に考えた後に海岸清掃を行っています。



写真提供：一般社団法人ふくおか FUN

子ども達との生物観察（左）、海岸清掃（右）



④ 多様な主体と連携した保全活動

「特定非営利活動法人日本環境監視協会」は、「博多湾再生市民フォーラム」を開催し、海藻、カブトガニなどの生物や、海浜地の成り立ちなどの講演を行い、聴講者と意見交換を行うことで、博多湾の環境への理解を広める取組みを行っています。

また、漁業者や博多湾をもっと豊かにをテーマに活動する「サザエプロジェクト実行委員会」（事務局「特定非営利活動法人はかた夢松原の会」）と連携し、地域の子もたちの参加でワカメを養殖し、それを料理し食べて、水源地域の子もたちと交流する「ももち浜ワカメプロジェクト 2015」を実施し、博多湾の自然とふれあうことで海の持つ重要な役割、地域の漁業や文化、さらに環境保全の大切さを普及する活動を行っています。



資料：日本環境監視協会

博多湾再生市民フォーラムの様子（左）、ももち浜ワカメプロジェクト（右）



4 事業者

(1) 役割

- ・事業活動と博多湾の環境との関わりを把握するよう努めることが期待されます。
- ・博多湾の環境に配慮した事業活動を行うことなどにより、博多湾に及ぼす影響の低減を図ることが期待されます。
- ・それぞれの事業者の特性を活かした地域貢献や、学校教育の場と連携した学習支援を行う役割が期待されます。

(2) 取組み例

① 事業活動と博多湾の環境との関わりへの把握

「マリンワールド海の中道」では、海の生物に関する調査研究や保護活動、子どもに向けた教育活動などを行っています。

海の生物に関する調査研究や保護活動では、周辺の海岸に漂着・迷い込み・座礁したクジラ類（イルカを含む）の救護活動を行ったり、三苦海岸などでアカウミガメの産卵上陸や漂着などの調査、ふ化個体や漂着親の救護・保護飼育などを行っています。

教育活動では、例えば「移動水族館教室」において水槽の生物の展示だけでなく、触れることのできる生物などを使用し、体全体で感じ、生物に興味を持てる教育活動を行っています。また、「磯の観察会」では身近な海の生物を観察し、自然とのふれあいを楽しんでもらうことで、自然のすばらしさを再認識してもらおうようにしています。



マリンワールド海の中道の移動水族館教室（左）、磯の観察会（右）

② 博多湾の環境に配慮した事業活動

海と共生し、生活の場としている漁業者は博多湾を大切にしてきましたが、河川からの流入による海底のごみの堆積など、漁場環境の悪化が懸念されています。

海を守り、美しい海を次の世代に引き継ぐため、福岡市漁業協同組合青壮年部では、「博多湾漁場クリーンアップ作戦」を実施し、平成13年から海底のごみの回収を行っています。漁業者自らが博多湾の漁場環境の維持保全に努めていくとともに、市民にも博多湾の環境保全の大切さを訴えています。



博多湾漁場クリーンアップ作戦

③ ふ頭利用事業者による地域貢献

港湾関係団体、立地企業、関係行政機関などからなる「博多港ふ頭清掃会」では、博多港の須崎ふ頭から香椎パークポートまでの各ふ頭における環境保全を図ることを目的に、年2回「港の清掃デー」を実施し、事業所や周辺の道路の清掃を行っています。



「港の清掃デー」における清掃活動の様子



5 大学等研究機関

(1) 役割

- ・ 課題解決に向けた博多湾の環境保全・再生および創造に係る調査・研究を行うことが期待されます。
- ・ 国内外のネットワークを活用した連携の促進や情報の蓄積・提供の機能が期待されます。
- ・ 地域の多様な活動の支援や学校教育の場と連携して学習支援の役割が期待されます。

(2) 取組み例

① 博多湾の環境保全・再生および創造に係る調査・研究

九州大学（農学研究院水産増殖学研究室）では、主な海藻・海草類の生育場となっている今津や能古島、志賀島において毎年調査を行っており、岩礁海域における重要な生態系である藻場の分布や、アマモ場の分布・生育状況およびアマモ場周辺の稚仔魚などの生息状況を、博多湾の環境指標の一つとしてモニタリングしています。



地引き網によるアマモ場周辺の稚仔魚などの採取（左）、採取した稚仔魚などの分別（右）

福岡女子大学（国際文理学部環境科学科）では、博多湾東部海域の生物生息環境を調べるために、物理化学的な水質・底質調査、および植物プランクトンや底生動物などの組成調査を行っています。また、和白干潟においても、同様に、底質調査と底生動物組成調査を行うとともに、アサリの年級群解析や安定同位体比を用いた干潟の食物連鎖なども研究しています。

② 貧酸素水塊や栄養塩類等の物質循環に関する調査・研究

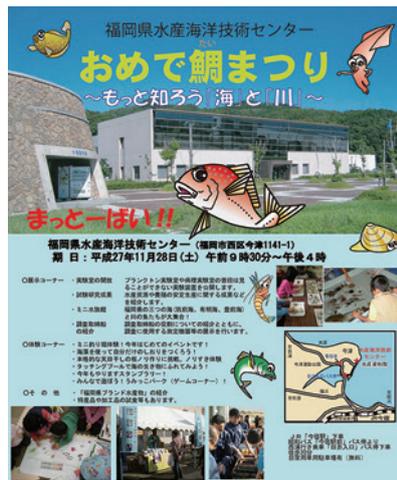
福岡市保健環境研究所では、博多湾における夏季の貧酸素水塊や赤潮の発生、冬季の無機態リンの低下などの問題に関し、原因解明や改善策につながるように状況を把握するとともに、地方環境研究所と国立環境研究所との共同研究に参加するなどの調査・研究を行っています。



③ ネットワークを活用した連携の促進や情報の提供

福岡県水産海洋技術センターでは、県民が県産水産物を消費する機会を増やすとともに、漁業への理解促進を図るために、県産水産物を積極的に取り扱う飲食店や販売店を「ふくおかの地魚応援の店」に認定し、その情報をホームページにて公表しています。

また、水産業の現状や県が行っている水産関係の試験研究などを分かりやすく紹介する一般開放イベント「おめで鯛まつり」を毎年開催しています。このイベントではタッチングプールや、県産のサワラ・シバエビの試食、おさかなスケッチコンテストなど、様々な企画が行われています。



資料：福岡県水産海洋技術センターホームページ

ふくおかの地魚応援の店のPR (左)、 おめで鯛まつりの案内 (右)

④ 大学による環境学習支援

九州大学と西南学院大学が協力して、百道浜校区青少年育成協議会主催の百道浜海岸の生き物観察会に講師として参加しています。この観察会には、地域の子も達が参加し、大学生が地引き網などで採取した魚やカニなどに手で触れたり、自分で採った海藻やヒトデを観察しています。観察会の最後には、魚などのすみかとなるアマモの移植を行い、地域の海を守る心を育てています。



百道浜海岸での生き物観察会 (左)、 採取した海藻やヒトデ (右)

